

「チーム海部」の強い「絆」を生かし、魅力あふれる自然・学習環境で深い「学」びを実現し、生徒一人一人が「夢」をかなえる日本一の高校をめざす。

本年度重点課題

1. あいさつや礼儀を大切にし、人に愛される豊かな人間性の育成
2. 自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決していく力の育成
3. 夢と志を持ち、自己実現に向けて困難に打ち克つ力の育成
4. 学習習慣の定着を図り、主体的に学ぶ態度の育成
5. 望ましい職業観や進路意識の育成

基本的なコンセプト

校訓「絆」「学」「夢」を大切にしたい人づくり

- 「絆」→ あいさつや礼儀を大切にし、人に愛される豊かな人間性を持ち、地域のリーダーとなる自立した生徒を育てる。
- 「学」→ 基礎・基本を徹底し、自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決していく力を身につけた生徒を育てる。
- 「夢」→ 夢と志を持ち、自己実現に向けて困難に打ち克ち、果敢にチャレンジする生徒を育てる。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策	
あいさつや礼儀を大切にし、人に愛される豊かな人間性の育成	①基本的な生活習慣の確立〔生徒課〕 ②身だしなみ指導の徹底〔生徒課〕 ③規範意識の向上〔生徒課〕 ④安全教育の徹底〔生徒課〕 ⑤保健安全指導の充実〔学校保健・生徒課〕 ⑥学校行事の充実〔特活課〕 ⑦部活動の活性化〔特活課〕 ⑧円滑な寮の運営〔寮務課〕 ⑨地域に根ざした運営〔総務課・研修情報課〕	評価指標 ①自主的にあいさつができる生徒→80%以上 遅刻→1日あたり1人以下 ②全体での服装・頭髪検査→年12回以上 ③規範意識の向上を図るために立哨指導を実施する。立哨指導日数→年110日以上 ④自転車車体検査→年3回 交通安全講話→年1回 交通安全教室→年4回 携帯電話安全教室→年1回 ⑤保健便りの発行→年8回、薬物乱用防止教室・救命講習会→各年1回 ⑥地域ボランティアの方と生徒会役員の挨拶運動→年10回以上 海高祭・球技大会等各学校行事に対する生徒の満足度→80%以上 ⑦部活動顧問会議→年3回以上 入部率→95%以上 ⑧舎監会議→年2回、寮運営協議会→年1回、寮生会議→年5回、寮生保護者会→年1回 ⑨ホームページアクセス→年200,000回以上、保護者等による学校評価アンケート→年1回 海高だよりの発行→年3回	評価指標の達成度 ①自主的にあいさつができる生徒の割合→83% 遅刻→1日あたり1.86人 ②全体での服装・頭髪検査→年9回 ③交通ルール・マナー遵守の年間指導日数→95日 ④自転車車体検査→年2回 交通安全講話→年1回(牟岐署交通課) 交通安全教室→年4回[42名] 携帯電話安全教室→年1回 ⑤保健便りの発行→年11回 薬物乱用防止教室→1回、救命講習会→1回 ⑥地域ボランティアの方と生徒会役員の挨拶運動→年7回 海高祭・球技大会等各学校行事に対する生徒の満足度→80% ⑦部活動顧問会議→年3回、入部率→102% ⑧舎監会議→年2回、寮運営協議会→年1回、寮生会議→年5回、寮生保護者会→年1回 ⑨ホームページアクセス→年80,027回(2/28現在)、保護者等による学校評価アンケート→年1回 海高だよりの発行→年3回	総合評価 (評定) B (所見) ①②基本的な生活習慣が十分に身につけていない生徒がいる。全教員で粘り強く指導していく必要がある。 ③～⑤講演会や啓発活動を通して、生徒の意識向上に努めることができた。 ⑥生徒会役員による校内ごみ拾い、運動部生徒による清掃活動など継続的自主活動が見られた。 ⑦部活動においては部員数を保ちながら、積極的な取組を続けている。各部共に工夫を凝らし、生徒が充実できる活動を行うことができた。 ⑧日直・舎監・部顧問・寮生の保護者・寮運営協議会、それぞれが協力して寮の運営にあたり、寮生が自立できる環境作りに取り組んだ。 ⑨ホームページが新システムに移行し、今後さらに記事を増やしていく必要がある。	①～⑨コロナウイルス蔓延の下、活動が制限される中でこれだけの成果が上がっていることは評価できる。 ①あいさつはよくできていると思う。 ④携帯電話、SNSの利用について、つらい思いをしていたり、追い詰められている生徒がいないか、匿名アンケートなどの手法で把握できるルートを確保する必要がある。 ⑦部活動の活性化について、各部共に工夫を凝らし、充実させているため、入部率も上昇しているのよいと思う。 ⑧第2寮完成後の運営につき、事務会議等円滑に進んでいるようで安心している。 ⑨ホームページについては、スマートフォン表示では何が大切にされているか分からない記事構成になっている。「記事を増やす」よりも情報を整理する必要がある。	①～⑤生徒指導にあつては、説明を十分に行うことで保護者の理解・協力を得るように努める。 ①～⑤地域の方々の意見・要望を真摯に受け止め、その期待に応えられる学校であり続けるため、より一層の「生徒指導」の充実を図る。 ⑥あいさつ運動の継続と各学校行事の内容検討と充実を図る。 ⑦顧問会議を定期的開催し、教員間のコミュニケーションを図る。部活動を通して、豊かな心・規律ある態度等の育成を図る。魅力ある部活動とするため、さらに近隣中学校との連携を深め、大会等での実績を残すことができるようにする。 ⑧自立した生活ができるよう教員のサポートを充実させる。また、生活環境を整え、美化に努める。 ⑨保護者への情報公開の充実を図る。今年度に引き続き、各種学校行事の案内や配布物等をホームページに掲載する。
		活動計画 ①生徒会によるあいさつ運動の実施、始業時間の遵守や言葉づかい等、マナーについて指導を徹底させる。 ②違反者については、担任による常時指導(家庭連絡を含む)、学年や生徒課、保護者とも連携し、身だしなみの改善に努める。全校・学年集会などで服装・頭髪検査を実施し、学校全体として指導を行う。甚だしい場合は、保護者と連携して改善を図る。 ③交通ルール・マナーの遵守について、生徒会や教員の立哨指導(駅・交差点・校門前)を通じてマナーの大切さを教え、規範意識の向上に努める。 ④学校安全教育の徹底を図り、交通事故防止や携帯電話でのトラブル防止に努める。 ⑤疾病予防の大切さを学ばせ、健康教育を推進する。 ⑥「あいさつの励行」に積極的に取り組む。海高祭・球技大会等各学校行事の内容の充実を図る。 ⑦魅力ある学校づくりにむけ、技術・技能、仲間意識の向上に取り組む。昨年度以上の成績をあげる。 ⑧寮生自身が、自ら寮生活のマナーやルールを守り、自分たちで寮を運営するという自覚を持たせる。 ⑨保護者・地域との連携協力、情報公開を充実させる。	活動計画の実施状況 ①校訓である「絆」「学」「夢」に沿った学校生活の満足度→88% ②違反者については、学年や生徒課、保護者とも連携しながら身だしなみの改善に努めた。全校・学年集会などで服装・頭髪検査を実施し、学校全体として指導を行った。甚だしい場合は、保護者と連携して改善させた。地域保護者からの信頼度→74% ③教員の立哨指導(駅・交差点・校門前)を通じて交通ルール・マナーの大切さを教え、規範意識の向上に努めた。 ④学校安全教育の徹底を図り、交通事故防止に努めた。牟岐署と連携し、月1回実施のあいさつ運動時に交通安全啓発を行った。 ⑤疾病予防の大切さを学ばせ、健康教育や食育を推進した。 ⑥「あいさつの励行」について生徒会で話し合い、あいさつ運動に積極的に取り組んだ。開講債・球技大会の種目や運営について、工夫して取り組んだ。さらに充実した活動になるように、意見を話し合うことができた。 ⑦中学校との合同練習や練習試合を実施することで魅力ある学校、部活動への取組を行った。また文化祭では地域との連携を図ることでより充実した活動となった。また男子バスケットボール部では県総体、選手権大会で準優勝の好成績を残した。 ⑧寮生自身が、自ら寮生活のマナーやルールを守り、自分たちで寮を運営するという自覚を持たせた。			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策	
自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決していく力の育成	①ボランティア活動の充実〔特活課・JRC〕 ②人権教育の推進〔人権教育課〕	評価指標 ①小・中・高連携ボランティア→年1回以上、特別支援学校との交流学習→年2回以上、自主的ボランティア活動(地域のボランティア、収集活動、募金活動など)→1人年1回以上 ②-1人権学習HR活動→年5回 ②-2人権教育啓発行事に対する生徒の満足度→80%以上 ②-3「人権だより」の発行→年3回 ②-4人権教育教職員研修→年3回	評価指標の達成度 ①小・中・高連携ボランティア→年0回 特別支援学校との交流学習→年0回 自主的ボランティア活動→1人年1回以上40% (地域のボランティア、収集活動、募金活動など) ②-1人権学習HR活動→年5回 ②-2人権・道徳教育講演会 生徒満足度→90% ②-3「人権だより」の発行→3回 ②-4「人権教育教職員研修→3回	総合評価 (評定) <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> (所見) ①生徒会役員を中心に、積極的な活動が見られた。 ②SNSでの生徒間での傷つけ合いが起こらないように具体的なNG集を示し、生徒間で自主的に防止できる自主性を育みたい。また、世界の人権状況に日本が十分に追いついていないという近年の指摘も伝えるべきと考えます。 ③様々な学習機会において、人権に関する知識を更新し、考えを深めさせることができた。学んだことや考えたことを自分のこととして捉え、生活の中で実践していく姿勢を育てていくことの必要性を強く感じた。 ④素晴らしい活動です。継続してください。 ⑤ボランティア部の活動は、町内でも見ることができてよと感じております。それらの活動を小中との連携したものを今後展開いただきたいと思います。	①DMVの運行開始に向けて、海南駅の飾り付けや運行開始後に婦人会と協力しながら、鉄道ファンや観光客の案内を行っていただき、ありがたかった。 ①交流事業以外は充実した活動だったかと思います。 ②SNSでの生徒間での傷つけ合いが起こらないように具体的なNG集を示し、生徒間で自主的に防止できる自主性を育みたい。また、世界の人権状況に日本が十分に追いついていないという近年の指摘も伝えるべきと考えます。 ③生徒・保護者・教員が情報を共有でき、話題のきっかけとなる「人権だより」になるよう、内容の充実を図る。 ④学校・地域・家庭・関係機関が密接な連携を図り、より効果的な人権教育が推進できる体制を築くことが重要である。そのためにも、教師自身が自らの意識改革に迫るような研修内容の工夫・改善に努める。	①自主的ボランティア活動への積極的参加の促進を図る。 ②-1学んだことや感想に書いたことをもとに、社会の変化や様々な人権問題に自主的、主体的に対応できる実践力を育てていきたい。 ②-2生徒の心に響く人権啓発行事になるよう、魅力や映画や講師の選定をしていく必要がある。 ②-3生徒・保護者・教員が情報を共有でき、話題のきっかけとなる「人権だより」になるよう、内容の充実を図る。 ②-4学校・地域・家庭・関係機関が密接な連携を図り、より効果的な人権教育が推進できる体制を築くことが重要である。そのためにも、教師自身が自らの意識改革に迫るような研修内容の工夫・改善に努める。
		活動計画 ①地域社会と海部高校生の絆づくりをすすめるとともに、ボランティア活動を積極的に行い、生徒の豊かな心と主体的に行動する力を養う。 ②-1HR活動に人権学習を位置付け、生徒の人権意識(『安心・自信・自由』)の高揚を図り、人権問題解決の実践力を育成する。 ②-2人権・道徳教育映画会や人権・道徳教育講演会等の内容を充実させる。 ②-3人権学習HR活動や人権教育啓発活動等について「人権だより」で発信し、生徒・保護者・教職員で共有し、人権意識の高揚を図る。 ②-4徳島県人権教育基本方針の精神をふまえ、各種研究会の研修成果等の共有を図る。	活動計画の実施状況 ①JR海南駅を季節に合わせて飾り付けを行った。 ②-1同和問題を中心に、学年統一のテーマで実施した。今年度の第1回目は社会の状況に合わせ、全学年で「インターネットによる人権侵害」を取り上げた。また、1年生で学ぶテーマとして「様々な人権問題」を位置づけ、「新型コロナウイルス感染症に関する人権問題」について考えられるようにした。 ②-2人権・道徳講演会は、講師に交通事故被害者家族の三浦由美子氏をお招きした。「大切なもの～伊織の死を通じて～」と題し、命の大切さについてお話いただいた。 ②-3人権・道徳講演会の内容や生徒の感想、ヒューマンライツ部の活動内容などを掲載した。1学期号は配布せず、「人権の木」として校内に掲示した。 ②-4主な校外研修(参加人数) 四国地区人権教育研究会《書面開催》 徳島県人権教育研究会《全体会:オンライン、分科会:書面開催》(2名) 徳島県高等学校・特別支援学校人権教育研究会 全体会(1名)分科会《オンライン》(7名) 人権フォーラム《中止》 部落解放・人権徳島地方研究会《オンライン》(2名) 海部郡人権教育研究会海陽大会(1名) 海陽町分館巡回学習会《参加見合わせ》 海陽町人権学習会《参加見合わせ》			
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策	
夢と志を持ち、自己実現に向けて困難に打ち克つ力の育成	①特別支援教育の充実〔教育相談課〕 ②教育相談の充実〔教育相談課〕 ③危機管理意識の育成〔環境防災課〕	評価指標 ①校内研修会→年1回、特別支援・不登校対策委員会→年5回 ②教育相談週間→年3回、悩みアンケート→年3回、教育相談学年部会→年5回 ③-1防災避難訓練→年3回 ③-2防災講演会→年1回、各種防災フォーラム・研修会などに参加 ③-3普通救命講習→年1回 ③-4防災HR活動→年1回	評価指標の達成度 ①校内研修会→1回 特別支援・不登校対策委員会実施→5回 ②教育相談習慣→3回、悩みアンケート3回 教育相談学年部会→5回 ③-1防災津波避難訓練→年2回 小・中・高・地域合同避難訓練→なし 町主催津波避難訓練→年1回 ③-2防災講演会→年1回 防災クラブ交流イベントに参加(オンライン) 防災教育の生徒満足度→80% ③-3普通救命講習→年1回 ③-4防災HR活動→年1回	総合評価 (評定) <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> (所見) ①②校内研修会を通して、「気になる生徒」についての教職員で共通理解し、対応を考えることができた。 ③様々な防災訓練や講演会などを通じて、防災意識の持続と高揚を図り、防災リーダーとしての自覚を育てるとともに、地域や関係機関と連携することで、互いに助け合える「顔と顔が見える関係」を築くことができた。	①②「気になる生徒」については、教育相談学年部会から特別支援・不登校対策委員会へ上げ、教員間の共通理解を図ることができている。また、近年小中高の連携も進んできている。 ①習熟度別授業やチームティーチングを展開した。 ②インターネット(みんなの高校情報、グーグルのロコミなど)を見ると、在校生でもまだまだ教員とのコミュニケーションが上手くいっていない方がいるように感じ、特に努力すべき点と考える。 ③来たるべき震災に備え、防災教育を引き続き推進していただきたい。	①②外部機関との連携を図りながら、さらに支援体制を整える。 ①チームティーチングがより一層効果を発揮できるよう工夫を行う。授業のユニバーサル化を目指し、学習教材の工夫を行う。 ②悩みアンケートに記入されていることを面談などで詳しく把握し、早期に対応する。 ③訓練内容や参加する訓練・研修会などを精選し、より高い防災意識を養い、持続させる。
		活動計画 ①習熟度別授業の展開やチームティーチングなどの実施。また、すべての生徒に分かりやすい授業のユニバーサル化に取り組む。 ②「悩みアンケート」の実施や、相談週間を設けることにより、教育相談活動を充実させる。 ③防災・減災教育啓発に力を注ぎ、防災意識の持続と高揚を図るとともに、危機管理意識や将来における各地域の防災リーダーとしての自覚を促す。	活動計画の実施状況 ①特別支援・不登校対策委員会にかかる生徒については、職員全員の共通理解を図ることができた。 ②悩みアンケートや相談週間で生徒の実態把握に努めた。 ③南部県民局・海陽町役場・海陽町社会福祉協議会などの関係諸機関と連携して防災教育を推進し、実践力を身に付け、将来の防災リーダーとしての自覚を促すため校内では年2回の避難訓練を実施、防災講演会は年1回実施した。また今年度は4名の生徒が「高校生防災士」の資格を取得することができた。高校生防災士を中心に小学校への出前授業、防災まつり、JICA四国センター主催の多文化共生型の減災社会づくり実践研修や中・高校生防災クラブ交流イベント等に参加した			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策	
学習習慣の定着を図り、主体的に学ぶ態度の育成	<p>①分かる授業、興味を持ち学ぶことが楽しい授業の実施〔各教科・教務課〕</p> <p>②読書活動の推進〔研修情報課図書担当〕</p> <p>③授業時数の確保〔教務課〕</p> <p>④学習習慣の定着〔進学課〕</p> <p>⑤自ら学習する態度の育成〔進学課〕</p> <p>⑥個人の能力や適性の伸長〔進学課〕</p> <p>⑦各種検定の合格率の上昇〔情比科・英語科〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①生徒による授業評価アンケート→年1回 授業に対する生徒の満足度(授業評価アンケート)→85%以上 教員による公開授業週間→年2回, 学力向上推進委員会→4回</p> <p>②図書室の年間貸し出し冊数→1,000冊以上 年間を通じての朝の読書の実践 図書館だより→年3回, 全校一斉読書会→年1回</p> <p>③授業の実施率→法定授業時数の80%以上</p> <p>④平均家庭学習時間2時間以上の者の割合→40%以上 生活実態調査→年5回, 週末課題→年20回以上</p> <p>⑤補習出席率→90%以上 自主的なプリント学習(国・数・英)提出者→毎日90%以上</p> <p>⑥進学希望者校外模試受験者率→90%以上</p> <p>⑦全商検定(簿記, 情報処理, ビジネス文書, 商業経済, 珠算・電卓)→2級合格率50%以上, 3種目1級合格者10%以上 実用英語技能検定→準2級・2級合格率80%以上 GTEC→CEFRでA2レベル相当以上取得者80%以上</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①生徒による授業評価アンケート→1回(11月) 授業に対する生徒の満足度(生徒による授業評価アンケート)→94.3%【令和2年度95.7%】 教員による公開授業週間→1回(10/18~10/22) 学力向上委員会→4回</p> <p>②図書室の年間貸し出し冊数→1258冊(学級文庫を含む。2/15現在) 図書館だより→3回, 全校一斉読書会→1回</p> <p>③授業の実施率80.7%(2/21現在) 【令和2年度81%(2021/2/19現在)】</p> <p>④2時間以上学習者→45.1%【令和2年度40.6%】 生活実態調査→5回(5月, 7月, 9月, 11月, 2月) 週末課題→20回以上実施できた。</p> <p>⑤補習出席率→90%以上達成できた。 自主的なプリント学習(国・数・英)提出者→毎日95.2%の提出率で, 目標は達成できた。【令和2年度90.6%】</p> <p>⑥進学希望者校外模試全員受験→90.9% 【令和2年度89.9%】</p> <p>⑦情報ビジネス科検定合格率 2級合格率→65%, 1級三種目合格者→7% 実用英語技能検定, 準2級・2級合格率→42% GTEC, CEFRでA2レベル相当以上取得者→70%</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>(所見)</p> <p>①-⑥家庭学習の習慣化が本校生徒の大きな課題である。進路実現に必要な学力を身に付けるために家庭学習の必要性を強く意識させていきたい。</p> <p>①授業アンケートを実施することにより, 生徒の授業の取り組み状況や家庭学習状況についても把握することができた。</p> <p>②学校評価アンケートで, 朝読ができていないと答えた生徒は96%。本を忘れてきた生徒は, 学級文庫を利用することで読書ができていた。</p> <p>③夏期休業の見直し等により, 臨時休業中の授業日数を補充することができた。</p> <p>④⑤週末課題やプリント学習の中身を授業態度や生徒のニーズを踏まえて検討したい。</p> <p>⑦全商2級合格率は達成できたが, 1級三種目合格率は1人(7%)で達成できなかった。1級二種目以上合格者は50%であり, あと少しの努力が必要であった。実用英語技能検定については, 受検者数は増加しているが, 合格者については目標には届かなかった。GTECについては, 多くの者がA2レベルをクリアすることができた。</p> <p>①-⑦模試や資格試験等に具体的な目標を設定していることも優れており, 目標達成にはあと一歩ながら, 生徒の良い羅針盤となり, 頑張れば成果が上がってくると考える。質問しやすい環境・雰囲気醸成をお願いします。</p> <p>②学校図書室についてはもっと活用できるので, 町の図書館とも連携を図っていただきたい。</p> <p>②生徒が将来を見通すことのできるような情報源, 図書の整備をお願いします。</p>	<p>①全教職員による学校評価についての共通理解を進める必要がある。また, 指導と評価の一体化を意識した授業実践を行うために, 各課・各教科会の充実が望まれる。</p> <p>②来館者数は昨年度とほぼ同数であるが, 学級文庫の入れ替え回数の増加, 図書委員による本の選定, 国語の授業で作成したポップの図書館内での展示等の工夫が貸し出し冊数の増加に繋がった。</p> <p>③授業の実施率については, 現在の評価制度で問題はない。</p> <p>④全く勉強をしていない生徒が調査時には毎回数名ずつおり, 学習習慣の定着を促していく必要がある。</p> <p>⑤プリント学習についてはクラスの状況に応じて, 学び直し学習を取り入れていく必要がある。また, 校内テストについては, 早い時期からの学習を徹底させ, 得点率の向上を図る。</p> <p>⑥校外模試の結果を生徒個々にしっかりとフィードバックしていくことが求められるとともに, 教員間で情報の共有を行い, 生徒個々への対応が求められる。</p> <p>⑦全商各検定の1級の難易度が高いことや受検料の高騰により, 受検させる検定の見直しをしなければならない。また, 英語検定については, 実情に応じて目標値の再設定を行い指導することが望まれる。</p>	<p>①各教科会を定期的に関き, PDCAサイクルに基づいた見直し・改善に努める。</p> <p>②新刊書を増やし, 魅力ある図書室にする。生徒からリクエストを出してもらい, 要望に応える。(図書室にない本は他の図書館から借用する。)図書館だよりの定期的な発行や, 興味を引くような企画を考え発信していく。</p> <p>③学校行事の精選を継続して考えていく必要がある。</p> <p>④学年団との連絡を密にし, 常日頃から根気強く, 習慣化を働きかける。プリント学習の徹底を図る。</p> <p>⑤教科会・学年団との連携を図り, 生徒への直接的な声かけを粘り強く行っていく。</p> <p>⑥全員受験の徹底化と受験後の見直しを徹底させるとともに, 素早く情報共有を行い, 生徒面談等を行っていく。</p> <p>⑦授業に関連する各種検定の学習指導計画の見直しと, 補習体制の合理化を検討していきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1教科・科目において, 生徒の理解度や授業への興味・関心等について意識の変化を把握し, 生徒が主体的かつ積極的に授業に取り組むよう創意工夫する。</p> <p>①-2授業での小テスト・定期テスト・校内テスト・模試など, テストを生かした指導方法の改善を図る。</p> <p>①-3公開授業週間を充実し, 授業力向上を目指す。</p> <p>②「みんなでやる。毎日やる。好きな本でいい。ただ読むだけ。」をスローガンに朝の読書の充実を図る。</p> <p>③行事の精選や学期末の日程の工夫をととして, 授業時数の確保に努める。</p> <p>④全ての生徒の学習習慣の定着を図るため, きめ細かな目標や課題の設定などの指導助言を行う。5教科で週末課題を実施し, 課題の工夫と実施の徹底を図る。</p> <p>⑤-1普通科・情報ビジネス科の生徒に補習の積極的・継続的な参加を根気強く呼びかけ, 個人面談で学習の必要性を説得していく。</p> <p>⑤-2プリントの中身について, 難易度に考慮し, モチベーションを高め継続する内容となるよう工夫する。</p> <p>⑥進学希望者に, 校外模試を受験することの意義を根気強く伝えていく。</p> <p>⑦能力に応じた各種検定を積極的に受検させ, 合格できるよう支援する。きめ細かな面談指導等を実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①教科・科目において, 授業評価アンケートを実施し, 生徒の理解度や授業への興味・関心等について把握し, 生徒が主体的かつ積極的に授業に取り組むよう工夫した。公開授業週間を10月に設定し, 授業力向上を目指した。</p> <p>②学級文庫を設置するなどして, 朝の読書の充実を図った。</p> <p>③夏期休業中の日程見直しや学校行事の精選, 学期末の日程の工夫をととして, 授業時数の確保に努めた。</p> <p>④英・数・国を中心に週末課題を実施し, 課題提出の徹底を図った。</p> <p>⑤定期考査や校内テストに向けての学習を促すために, 生活実態調査を実施するなど, 意識の高揚に努めた。また, 自分の分からない部分をなくそうとして積極的に質問に来る者もいるが, 質問に来る者は限られている。質問に来る人数を増やす工夫をしたい。</p> <p>⑥校外模試の必要性を継続し生徒に働きかけた。</p> <p>⑦授業に関連する各種検定の指導計画の見直しと, 補習体制の強化, 個別指導に努めた。</p>	<p>①授業アンケートの結果やデータの生かし方についてはさらに工夫が必要である。</p> <p>②部活動で忙しい生徒や読書習慣のない生徒にとっては, 朝読だけが唯一の読書の時間であるため, しっかりと取り組ませたい。</p> <p>③授業の実施率については, 現在の評価制度で問題はない。</p> <p>④学年やクラスによって提出率に差がある点について改善の必要がある。</p> <p>⑤継続できなかった生徒への呼びかけを粘り強く行っていく必要がある。</p> <p>⑥多様な進路選択に対応していくことが求められる。</p> <p>⑦コロナの影響で試験の形態の変化があった。競争倍率が高くなったり, ディスカッションなどが取り入れられたりしたため, 様々な指導が必要となってきている。</p>	<p>①授業評価アンケートの生かし方について検討し, 公開授業週間の充実を図る。</p> <p>②朝読の時間を継続する。</p> <p>③学校行事の精選を継続していく必要がある。</p> <p>④~⑦保護者生徒双方の職業意識・進路意識の高揚に向けて, 効果的な方策を追求していく。</p> <p>⑦就職にも学力が必要であり, 補習以外でも自ら学習するような習慣づくりを確立させたい。</p>	

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策
望ましい職業観や進路意識の育成	①望ましい職業観や進路意識の育成〔進学課〕	<p>評価指標</p> <p>①進路講演会→年2回以上 保護者対象進路説明会→年2回以上 生徒への進路ガイダンス実施→年2回以上 教員の企業・大学・短大・専門学校等への視察訪問→年2回以上</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①進路講演会→0回 保護者対象進路説明会→0回 生徒への進路ガイダンス→1回 企業・大学等への視察・訪問→0回</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>(所見)</p> <p>①-③保護者の進路に対する意識の把握の必要性を感じた。</p> <p>②職員間の情報共有と三者の進路に関するさらなる理解と意思統一が求められる。</p> <p>③コロナ禍の影響で就職試験もオンライン面接やWEB試験を取り入れる企業が増えた。工場見学の実施が難しい現状のため、今まで以上に適性等を十分考慮し、慎重な進路決定をさせるべきである。また、内定後の指導も細やかに行うことが求められる。</p>	<p>①コロナ禍での実施であり、感染予防の観点から各行事を中止することは致し方ない。確かな情報や最新の情報の発信は、生徒・保護者とも進路を共に考える上で大切なことであるので、工夫して開催をしていくことが求められる。</p> <p>②進学検討会では、入試改革等新しい情報を正確に共有していく必要がある。また、参加人数の増加に努めたい。また、コロナの感染状況を踏まえてオンラインでの実施も検討したい。</p>
	②きめ細かな進路指導〔進学課〕	<p>②家庭との協力体制を図る。三者面談→年1回以上 進路希望調査→年4回実施、進路検討会→年3回以上</p>	<p>②三者面談→年1回以上実施できた 進路希望調査→3回、進学検討会→6回</p>		
望ましい職業観や進路意識の育成	③就職指導の充実〔就職課〕	<p>③生徒・保護者対象の説明会・講演会→年2回以上 三者面談→年1回以上・個人面談→年2回以上 三年模擬面接練習→5回以上 三年就職補習の出席率→90%以上</p> <p>活動計画</p> <p>①早くから保護者への広報活動に取り組み、説明会が意義あるものとなるよう工夫する。</p> <p>②家庭との協力体制をつくる。</p> <p>③-1PTA総会や説明会の際などに保護者との就職相談を実施する。進路情報(就職先・求人数等)を充実させる。 ③-2就職指導について担任との連携を強化する。就職指導室の情報提供機能を充実させる。 就職補習を充実させる。就職試験対策を強化する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>③生徒説明会・講演会→2回 三者面談・個別面談の実施→3回 模擬面接練習→5回 就職補習の出席率→90%</p> <p>①進路説明会への保護者の出席率を上げるために、早くから広報活動を行うとともに、進学・就職状況の説明なども取り入れ工夫をこらした。</p> <p>②面談などを通じて家庭との協力体制の強化に努めた。</p> <p>③コロナ禍で対面での就職相談の機会は減少した。就職補習を通じて、就職活動の心構えや勤労観を考えさせることに注力し、企業選択をサポートできた。</p> <p>保護者に対しては、資料等 生徒を通じて進路情報の発信(就職先・求人数等)を充実させることができた。また、7月に就職説明会を開き情報提供の機会をつくった。</p>	<p>①-③コロナ禍ではありますが、リモートやオンラインを活用し進学や就職の視察や面談など、取り組みを柔軟に変えながら対応していきたいと考えております。</p> <p>①多様な進路選択に対応できる説明会になるようにしなければならない。</p> <p>②保護者への情報提供や進路についての啓発活動が必要である。</p> <p>③縁故就職から学校就職に急に変更するケースがあり、就職活動が不十分な生徒を指導することに多くの時間と労力を要した。2年次までに就職か進学かを決定するよう指導していかねばならない。</p>	<p>①②保護者生徒双方の職業意識・進路意識の高揚に向けて、効果的な方策を追求していく。</p> <p>③生活習慣の改善や礼儀作法、学習態度等、学力と並行して就職に必要な生き方に関する指導を強化していきたい。</p>

「総合評価」における「評定」の基準 A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった